

[1]

[2]

[3] ランディング・トレーニング・ミッションへようこそ。このミッションでは、計器着陸装置 (ILS) を使って Batumi 基地に着陸する訓練を行う。

オートパイロットで高度と方位を保つようにしておいた。アプローチの準備ができれば、速度を約 200kts に維持しろ。

騒音で私の説明が聞き取りづらかったら、ミッションを出て、WORLD と IN-COCKPIT の音量を 50% に下げろ。

[4] ランディングはどんなフライトにおいても難しい作業だ。良いランディングをするには機体のコントロールに注意を払い、基地の航空管制官 (ATC) の指示のもと、様々な計器類を駆使して精密なアプローチを行う必要がある。

ランディングは次のような順に行われる。TACAN か GPS を使って飛行場にナビゲートする。ラジオを飛行場の周波数に合わせる。ILS レシーバーを飛行場の ILS 周波数に合わせる。ATC の指示に従ってファイナルアプローチ・フィックスにナビゲートする。そして最後にファイナルアプローチを行って、滑走路のタッチダウンポイントに向かうグライドスロープを正確に降りていく。

準備ができればスペースバーを押せ。

[5] 前回 TACAN ナビゲーションをやったので、今回は EGI の GPS を使って目的地にナビゲートしよう。CDU DIVERT ページは、ウェイポイントとして選択可能な、最寄りの飛行場 4 つをリストアップしてくれる。このページに見るには、まず、右 MFC の OSB-13 を押して CDU ページを開こう。

[6] UFC で「FUNK」の後に「2」(NAV)を押して CDU NAV ページを開け。

[7] OSB-10 を押して DIVERT ページを開け。

[8] DIVERT ページは最寄りの4つの飛行場と、その方位、距離、Time-To-Go (所要時間) を表示している。

OSB-16 をおして Batumi 基地をステポイントにしろ。

[9] これで、HUD 右下のナビゲーション・データブロックで、「ホームプレート」までの距離と TTG を見ることができる。

CDU の FLD INFO (フィールド・インフォ) ページに示されているように、Batumi の ATC ラジオ周波数は 131.000MHz だ。この周波数に VHF/AM ラジオを合わせる必要がある。

VHF/AM ラジオを 131.000 に合わせたら、スペースバーを押して次に進めよう。

[10] MHz の 1 桁目のホイールを 1 回左クリックして「1」に合わせろ。

[11] よし。これで、Batumi ATC にコンタクトして、イニシャルアプローチの指示を受けることができる。だがその前に、アプローチのために ILS パネルをセットアップしよう。

ILS は地上に設置されている正確なアプローチシステムだ。滑走路にアプローチしてくる航空機を、垂直(グライドスロープ)、水平(ローカライザー)電波信号を使って誘導する。

ILS ビーコンは特定の周波数で発せられているから、アプローチする航空機が合わさなければならない。Batumi ILS は 110.30MHz だ。

ILS パネルの、左の周波数ホイールの上で、マウスホイールを回して、まず「110」に合わせよう。

[12] 次に右の周波数ホイールの上で、マウスホイールを回して、小数点以下を「.30」に合わせよう。

[13] 左周波数ホイールを右クリックして、ILS レシーバーの電源を入れよう。

[14] Batumi approach にチェックインして、我々がインバウンドすることを伝えよう。

HOTAS Mic Switch FORWARD command か 左 ALT と Num+キーを押して VHF/AM ラジオメニューを開け。

[15] F5 を押して ATC ラジオページを選択し、Batumi approach、そして F1 を押してインバウンドをコールしよう。

インバウンドの指示を受けたら覚えておけ。

Batumi ATC から、ファイナルアプローチ・フィックスへの方位を受け取ったら、スペースバーを押して進めよう。

[16] ESC キーをおしてラジオメニューを出よう。数分後にまた使うだろう。

これでファイナルアプローチ・フィックスへナビゲートすることができる。そこは滑走路から約 10nm 離れた場所だ。

飛行していく高度は、飛行場や状況によって異なってくるが、一般的には 2,000-3,000ft. AGL (地面からの高さ)だ。

準備ができればスペースバーを押してくれ。オートパイロットを切って、自力で ATC が指示した方位に旋回できるぞ。

[17] オートパイロットが OFF になった。ユーハブコントロール。ATC に支持された方位へ旋回しろ。高度は維持しろ。

[18]

[19] オートパイロットが ON になった。

滑走路の高度とコックピットの高度が同じになるように、Batumi の高度計に合わせる必要がある。高度計の pressure ノブの上で、マウスホイールを回すかクリックしてノブを回し、マウスを左にドラッグしろ。

[20] それから、ファイナルアプローチにおいて CDI から適切な指示を得るために、HSI の方位を滑走路の方位である 130 度に合わせる必要がある。これをする には、HSI COURSE SET ノブの上でマウスホイールを回して、HSI コースアローを 130 にしろ。左クリックで左右にドラッグしてもノブを回せる。数値は HSI のコースセレクトウィンドウでわかる。

[21] TAD マップを少し縮小して、アプローチする基地のステアポイントをマップ上で見てみよう。左 MFCD の OSB-15 を押して TAD を SOI にしろ。それから、HOTAS DMS DOWN か END キーを 2 度押せ。

[22] HOTAS Coolie Hat UP command か U キーを押して HUD を SOI にしろ。

[23] ファイナルを旋回したら、機体の操縦に集中したいだろうから、ファイナルアプローチ・フィックスに近づくとなんが起ころうか話しておこう。

約 2,500ft、230kts 対気速度 (KIAS) でアプローチ・フィックスに到達したい。

ファイナルアプローチ・フィックスに近づくにつれ、HSI の CDI が、コースアローにむかって下がってくる。滑走路の方位に沿ったグライドスロープを拾う ためには、2 つの線が一直線になるように、滑走路へ向かって旋回する。旋回しながら、着陸に向けて速度を落とし、ランディングギアとフラップを展開する。

準備ができればスペースバーを押せ。

[24] ILS レシーバーが ILS の信号を拾うと、ADI にグライドスロープ指示計が現れる。この針が中央にくるように高度を上げ下げしていると、ADI にピッチ ステアリングバーが現れ、グライドパスを降りる正確なピッチを教えてくれる。バンクステアリングバーも ADI に現れ、正確な方向をおしえてくれる。

準備ができればスペースバーを押せ。

[25] グライドパスに乗ったら、アングル・オブ・アタック・インデクサーを使ってアプローチ中の速度を維持しろ。今日は軽いので、120kts 以下でいいだろう。

AOA インデクサーでは「^」（上矢印）のライトは速度が速すぎることを示している。「v」（下矢印）のライトは速度が遅すぎることを示している。「O」（「ドーナツ」）のライトは適切な速度であることを示している。ドーナツと矢印が同時に表示されている場合は、速度が少しだけずれていることを示している。

準備ができればスペースバーを押せ。

[26] ILS に加え、Batumi 基地には進入角指示灯 (PAPI) も設置されている。PAPI はファイナルアプローチ中にパイロットがグライドスロープを維持する補助として作られている。滑走路の脇に、4 つのライトが横一列に並んでいる。ライトは赤か白のどちらかで示される。目標は、左から、赤 2 つ白 2 つの順に見えるようにすることだ。赤が多いときは、グライドスロープより低いことを示している。白が多いときは、グライドスロープより高いことを示している。

準備ができればスペースバーを押せ。

[27] アプローチ・フィックスにもう少し近づくまでオートパイロットを続ける。

時間を早回しにしたければ、左 CTRL と Z キーを押すといい。左 SHIFT と Z を押すと元の時間に戻る。

[28] ファイナルアプローチ・フィックスに近づいている。

NMSP で ILS モードを選べ。

[29] ADI の赤いグライドスロープ・ワーニング・フラグは我々が現在 ILS 信号を受信していないことを示している。滑走路に近づくとフラグは消え、グライドスロープ指示計が現れる。

準備ができればスペースバーを押せ。オートパイロットを切るから自力で降下できるぞ。

[30] オートパイロットが OFF になった。

今、Batumi の滑走路が 10 時の方向に見えるはずだ。滑走路が 9 時の方向に近づけば、アプローチ・フィックスの近くだ。

アンチスキッド・スイッチが ON になっているか確認しろ。

2,500ft に降下し、230 から 250kts の間を維持しろ。

[31] HSI の CDI がコースアローに近づいている。滑走路に向けて左旋回しろ。200kts 以下に向けて、徐々に速度が下がるようにパワーを落とせ。

滑走路のコースを通り過ぎてしまったら、CDI が再びコースアローと一直線になるように、反対方向にコースを修正しろ。

[32] グライドスロープ指示計が、グライドスロープより低いことを示している。針が中央になるように高度を上げろ。

[33] グライドスロープ指示計が、グライドスロープより高いことを示している。針が中央になるように高度を下げろ。

[34] グライドスロープ指示計が、グライドスロープに乗っていることを示している。ADI のピッチステアリングバーが中央になるようし、グライドスロープを維持しろ。

[35] もしまだだったら、機体を着陸態勢にしよう。F キーを 2 度押して、フラップを DN (ダウン) ポジションにし、左 SHIFT と G キーを押してランディングギアを下せ。

[36] ADI のピッチ・バンクステアリングバーが中央になるように飛べ。

速度が約 120kts を維持するようモニターしろ。

[37] Batumi approach は着陸許可をするため、我々を Batumi terminal control に移管した。着陸を要請するには、HOTAS Mic Switch FORWARD command か左 ALT か Num+キーを押し、VHF/AM ラジオメニューを開け。それから F1 を押し、着陸許可を要請しろ。

許可が下りたら、ESC キーを押してラジオメニューを出ろ。

[38] AOA インデクサーが速度が高すぎることを示している。機首を上げるか、パワーを下げて AOA を上げろ。必要であれば、左 CTRL と B を押してスピードブレーキを展開しろ。スピードブレーキを格納するには左 SHIFT と B キーを押せ。

[39] AOA インデクサーが速度が低すぎることを示している。パワーを上げろ。

[40] AOA インデクサーが速度が適切であることを示している。アプローチ中、ドーナツライトを維持しろ。

[41] 滑走路の端に近づくと、ADI のピッチステアリングバーが少しずつ振れ出すかもしれないが、それを追ってはならない。タッチダウンポイントまでグライドスロープを維持しろ。

[42] 滑走路まで数フィートのところまで接近したら、パワーを絞ってアイドルにし、やさしく操縦桿を引き、機体にフレアをかけろ。

[43] タッチダウン！機首を下げ、ノーズギアをタッチダウンさせろ。

[44] ラダーか、X と Y キーを使って機体に滑走路の中央を走らせろ。W キーを押してホイールブレーキをかけろ。

速度が 70kts 以下になったら、HOTAS Pinky button か INSERT キーを押してノーズホイールステアリング (NWS) を入れろ。

[45] 左側の誘導路を使って滑走路からでろ。

タキシングをしている間、曲がりながらブレーキをかけることはよせ。速度を制御できる範囲に維持して、タイヤやギア装置にダメージを与えたり、機体が傾かないようにしろ。

[46] 駐機場まで誘導路のラインを追え。チーフクルーがそこへ向かっているようだ。

[47] 機体をシャットダウンしよう。

まず、アンチスキッドとピトーチューブヒートスイッチを OFF にしろ。

[48] ILS レシーバーの左周波数ダイヤルノブを右クリックして切れ。

[49] AHCP の IFFCC と CICU を切れ。

[50] 左右の MFCD を切れ。

[51] カウンターメジャーシステムを切れ。

[52] 左 SHIFT と F キーを 2 度押してフラップを UP ポジションまで引き込め。

[53] 右コンソールの EGI と CDU を切れ。

[54] 右 ALT と END キーをおして左エンジンをスプールダウンしろ。

EMI パネルで、0 コアスピード RPM、ITT200 度以下になるまで安全なスプールダウンかチェックしろ。エンジンが止まるとわずかに熱を持つ「ソークバック」がおこる。

[55] 右 CTRL と END キーを押して、右エンジンを切れ。

[56] エレクトリカル・パネルのインバータースイッチを OFF にしろ。

[57] バッテリーを切れ。

[58] VHF/AM、UHF と VHF/FM ラジオを切れ。

[59] これでランディング・トレーニングを終了する。ESC キーを押してミッションを終了しろ。